



R04.09.15 / 袋井新産業会館キラット あきはホール
第2回「医療・介護・福祉業界交流会」

ふくろい産業
イノベーション
センター

ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol.6

発行日：令和4年9月22日（木）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

第2回「医療・介護・福祉業界交流会」開催 ～医療・介護×ものづくりによる課題解決や新たな価値創出～

医療・介護の現場が抱える困りごと（課題）について、ものづくり企業など異業種との連携を図ることで、解決の可能性を模索するとともに、新たなビジネス機会の創出につなげていくことを目的とした「医療・介護・福祉業界交流会」を開催しました。

本交流会には、医療・介護に携わる事業所をはじめ、ものづくり企業、行政、学術・専門機関、金融機関の34人が参加。（通称）はままつ医工連携拠点の取組事例紹介をはじめ、ものづくり企業の取組・製品紹介、医療・介護事業所の仕事内容や現場での課題説明などを経て、全体で意見交換を行いました。専門職ならではの視点による現場での気づきや想い、その解決に向けたものづくり企業の熱心な提案、新製品開発に向けた手法と考え方など、新たな展開につながる意見が多数出されるとともに、業種を超えた交流が図られ、有意義な時間となりました。

今後は、多業種参加型「ワークショップ」等の開催を通じて、現場課題などを更に深掘りし、具体的なプロジェクトの実施につなげてまいります。

講演／はままつ医工連携拠点の活動紹介



はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点

(通称:はままつ医工連携拠点)

事業総括 牧野 謙二 様



意見交換会／意見要旨



●医療・介護現場の抱える課題

認知機能が低下している患者が多い病棟や介護の現場では、移動や排せつ等の様々な場面で転倒などの事故を防ぐことに相当気を配っている。また、体格・身体能力には個人差があり、既製品だと対応が難しい場合もある。そのような課題解決につながるような製品開発等の取組が期待される。

●「現場」こそ科学的根拠に基づく対応が不可欠

介護の現場では、暗黙知(経験的知識)のみならず、科学的根拠に基づいた対応も非常に重要。福祉の現場は医療よりも20年程度技術的に遅れていると言われている。業務負担の軽減にはICTの活用、他業種との連携も含め、そのような考え方を根底に置いて進めていくことが不可欠。

●福祉施設の製品導入には行政が支援を

介護事業所等の福祉施設は、収益源が限定的のため、現場作業の負担軽減や入居者の満足度を高める高機能製品の導入は難しい。ハード・ソフト両面において、国・地方自治体の支援が不可欠。

●安心して幸せに暮らせるまちづくりに向けて

医療・介護の専門職のみならず、産業面からも積極的に関わりを持ち取り組むことは大変望ましい。

●リハビリテーションの現場から思うこと

リハビリテーションでは、できる限り体の機能を回復させ、いかに元の機能に近づいていくか、を考えてサポートを行っている。機能改善のうち、手の開く力や足の指の力を鍛える器具は少ない。また、片手でも操作できる、立ち上がった瞬間にブレーキがかかるような機能性と安全性を兼ね備えた車椅子などの製品があると良い。

●新製品開発「評価」で必要なこと

企業の新製品開発において課題となるのが、製品機能や効果の「評価」をどのように行っていくか。特定の施設(顧客)のみならず、複数の施設で試用してもらい、様々な観点からの意見・助言を得ることが必要ではないか。



出席団体一覧 ※敬称略・順不同

袋井市立聖隷袋井市民病院	社会福祉法人デンマーク牧場福祉会	社会福祉法人和松会
社会福祉法人袋井市社会福祉協議会	株式会社クラブ	株式会社ジェネシス
鈴木晒整理株式会社	株式会社モア・リビング	袋井市(地域包括ケア推進課・保険課)
はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構	学校法人静岡理工科大学
浜松いわた信用金庫	島田掛川信用金庫	ふくろい産業イノベーションセンター

お問い合わせ・相談窓口 ふくろい産業イノベーションセンター

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2(静岡理工科大学 やらまいか創造工学センター3階)
TEL:0538-45-0136(直通) / FAX:0538-45-0110 / E-mail:shakai@sist.ac.jp